

| | |
|-----------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当を行う場合 毎年9月30日 (その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。) |
| 公告方法 | 電子公告の方法により行います。 ホームページアドレス https://www.honyakuctr.com ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 |
| 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 | 三井住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人事務取扱場所 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 郵便物送付先 | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 電話照会先 | 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土日休日を除く) |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 スタンダード |
| 証券コード | 2483 |

- 住所変更等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

見通しに関する注意事項

この報告書には、翻訳センターグループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で入手可能な情報から判断した見込みであります。世界経済の動向、税制や諸制度等に関するリスクや不確実性を際限なく含んでおり、実際の業績や結果は当社の見込みと異なる可能性があることをご承知おきください。

翻訳センターウェブサイトのご案内



当社ウェブサイトにおきましても各種サービスのご案内やプレスリリースなど最新の情報を掲載しております。



(トップページ)

<https://www.honyakuctr.com>

(IR情報)

<https://www.honyakuctr.com/ir/>詳しくは ▶▶▶ 

株式会社 翻訳センター

第37期 期末のご報告

2022年4月1日～2023年3月31日



株式会社 翻訳センター
経営企画室
Tel : 03-6369-9963
e-mail : ir@honyakuctr.co.jp



機械翻訳の活用で作業効率化と安定した品質を確保 今後も最新技術を積極的にサービスに取り入れ、 さらなる成長へ

Q1 2023年3月期の振り返りを聞かせてください。

当期においては、ウクライナ情勢の長期化や世界的な金融引き締めなどにより、先行きの不透明な経済状況が続きました。このような環境のなか、当社は足元の需要の確実な取り込みとニューノーマルの下で発生した新たな需要の獲得に向け、受注体制の強化に積極的に取り組んでまいりました。その結果、当期の業績は2期連続の増収となり、営業利益、経常利益、当期純利益は過去最高を更新いたしました。翻訳事業は特許分野と工業・ローカライゼーション分野が売上を牽引し、好調に推移しました。主要顧客

からの好調な受注と情報通信企業からの大型案件の獲得が寄与しております。派遣事業は人員入れ替えの端境期となり、期を通じて低調に推移しました。通訳事業はコロナ禍からの反動で非常に好調で、日本国内での対面監査や現地視察の機会も増えています。コンベンション事業は3期連続で減収と厳しい結果となりました。翻訳事業の需要増と通訳事業の回復は期初予想に織り込んでおりましたので、その意味で当期はほぼ想定通りの1年であったと認識しております。



代表取締役社長

二宮俊一郎
Shunichiro Ninomiya

Q2 第5次中期経営計画の1年目が終わりました。取り組みと進捗を教えてください。

当社は機械翻訳の活用を事業戦略の柱に据えています。ここ数年は制作工程への機械翻訳導入による作業効率化を推し進めてまいりました。またドキュメント特化型の機械翻訳「製菓カスタムモデル」の開発・提供を通じて、人手翻訳の集約と顧客内シェアの拡大を図ってまいりました。これらの取り組みの効果は当社業績にも反映されています。

第5次中期経営計画の骨子は2つあります。1つは、機械翻訳のさらなる活用です。生産性向上と粗利の伸長で得られた価格対応力を生かし、競争優位性を高めていきたいと考えております。もう1つは、ドキュメント別モデル作成による機械翻訳の精度の向上です。「製菓カスタムモデル」で得たノウハウを他業種や別のドキュメントでのモデル作成に繋げるべく、さまざまな取り組みを進めています。昨年11月に発表した、プロネクサス社との有価証券報告書英文開示サービスの共同開発もその一例です。第5次中期経営計画の2年目は着手中の各取り組みをより加速させていきたいと考えております。



Q3 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

近年の産業翻訳業界では機械翻訳をはじめとするデジタル技術の進化が加速しています。2016年にニューラル機械翻訳が出現した時にも人手翻訳のニーズが消滅するのではないかと懸念が指摘されておりました。しかしながら、実際には制作工程のデジタル化や翻訳作業の高速化といった変化がありながらも、産業翻訳へのニーズは年々高まっております。今後も最新の技術を機動的かつスピーディーにサービスに実装し、競争力を上げていくことが当社の重要な課題であると認識しております。最近では、大規模言語モデルを応用した対話型の生成AIが大きな話題となり、ビジネスに活用する企業も出てきております。当社もさまざまな最新技術を積極的にサービスに取り入れ、さらなる成長を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

新任取締役のご紹介



取締役

Nana Nishino 西野 奈々

1973生まれ。2002年株式会社翻訳センター入社。2014年4月品質管理推進部長（現 制作統括部長）を経て、2023年6月、取締役就任（現任）

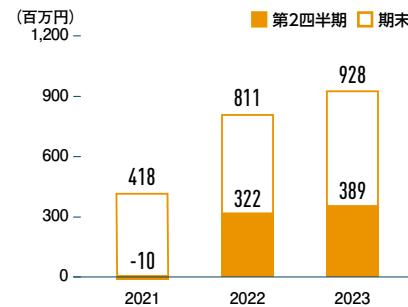
翻訳センターは1986年の設立以来、産業翻訳を軸に成長してまいりました。近年は、人工知能(AI)などのIT技術の進化により、産業翻訳業界を取り巻く環境は大きく変化しています。私自身は2002年の入社以来、一貫して品質管理とプロセス改善の業務に携わってまいりました。この経験を活かしながらも、時代の変革を捉え、制作プロセスに最新のテクノロジーを積極的に取り入れて、さらなる品質向上と業務効率化を推し進めてまいります。また、その結果としてお客様の抱える課題を解決し、お客様に新たな付加価値を提供できるよう全力を尽くしてまいります。引き続き、当社への温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年3月期連結業績

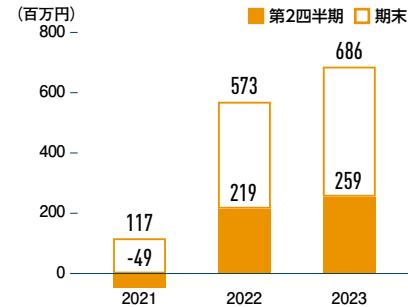
売上高 **10,947**百万円



営業利益 **928**百万円



親会社株主に
帰属する当期純利益 **686**百万円





ニューラル機械翻訳の出現

高精度な機械翻訳

2016年

機械翻訳の制作工程への導入

機械翻訳の利用を啓蒙・促進

2017年

ドキュメント特化型機械翻訳の開発・提供

大量の翻訳データを機械学習

2019年

ドキュメント別モデル作成による機械翻訳の精度向上

ドキュメント集約メカニズムの構築

2022年

機械翻訳の実用化

機械翻訳の戦略的活用

言語資産の活用による差別化

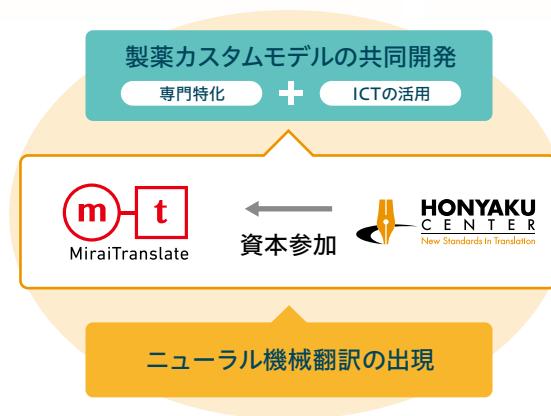
成功事例の応用と拡大

第3次中期経営計画

機械翻訳を活用した特化モデルを共同開発

ニューラル機械翻訳の出現により機械翻訳の精度は飛躍的に向上しました。当社は機械翻訳の戦略的な活用を目指し、2017年から制作工程に機械翻訳を導入。翻訳作業の効率化と品質の安定に取り組んでいます。

また同年には(株)NTTドコモの子会社である(株)みらい翻訳へ資本参加し、当社独自の機械翻訳を利用できる環境の構築を進めました。その後、臨床試験関連資料の翻訳業務の改善と言語資産の有効利用を目的としたドキュメント特化型の機械翻訳「製薬カスタムモデル」の共同開発を開始しました。



第4次中期経営計画

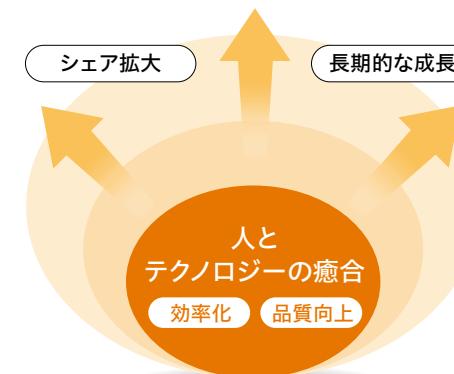
機械翻訳のさらなる活用でシェア拡大を目指す

第4次中期経営計画では機械翻訳の活用を成長戦略に柱に据え、2019年に「製薬カスタムモデル」の提供を開始。このモデルは人手翻訳から生成されるコーパス(原文と訳文が対になったデータ)を定期的かつ継続的に機械学習させていくことから、導入後も持続的な性能向上が期待できます。

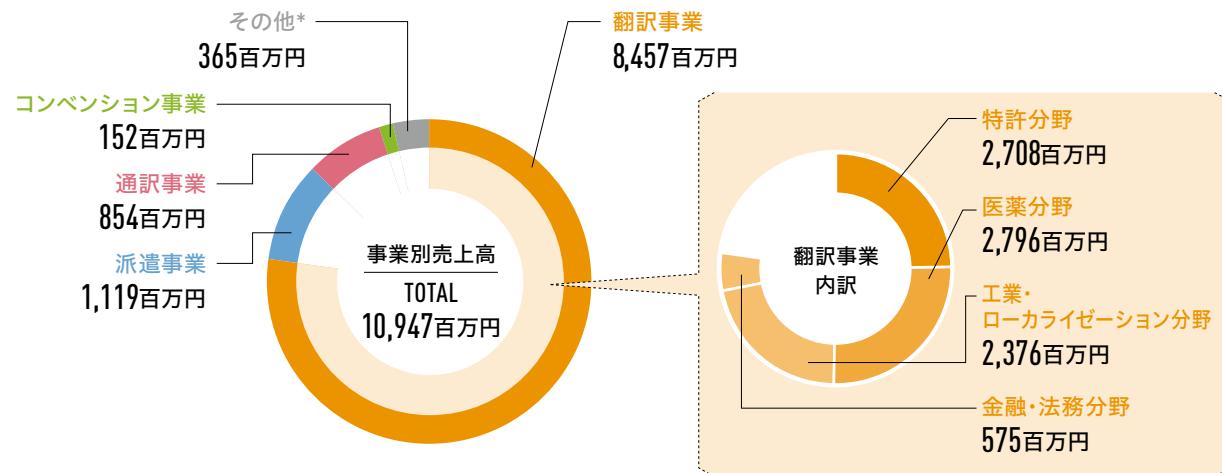
この取り組みで得たノウハウを他業種や別のドキュメントに応用・展開すべく、第5次中期経営計画では『ドキュメント集約メカニズムの構築』を重点施策に掲げています。

当社は他社に先駆けて人とテクノロジーの融合に取り組み、作業効率化の推進と品質の維持向上の両立を図ってまいりました。この優位性を活かして、今後もシェアの拡大と長期的な成長を目指してまいります。

第5次中期経営計画

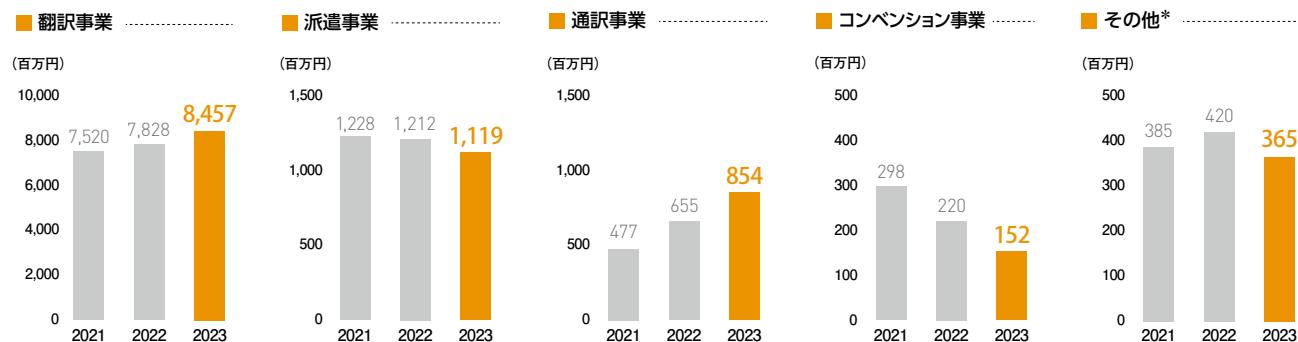


事業別売上高 (2023年3月期)



*「語学教育事業」は、量的な重要性が低下したため、報告セグメントから除外し「その他」に統合

セグメント売上高推移 (2023年3月期)



*グラフは変更後の区分に基づいて作成

株式の状況 (2023.3.31現在)

| | |
|------------------------------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 10,280,000株 |
| 発行済株式の総数 (自己株式32,222株を含む) | 3,369,000株 |
| 株主数 | 2,578名 |

大株主一覧表(上位10名)

| 株主名 | 持ち株数 | 持株比率*(%) |
|------------------------------------|---------|----------|
| エムスリー株式会社 | 663,000 | 19.86 |
| THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040 | 287,600 | 8.61 |
| 光通信株式会社 | 249,000 | 7.46 |
| 株式会社UH Partners 2 | 207,400 | 6.21 |
| 東 郁男 | 154,100 | 4.61 |
| 内藤 征吾 | 100,700 | 3.01 |
| MSIP CLIENT SECURITIES | 88,800 | 2.66 |
| 二宮 俊一郎 | 60,400 | 1.81 |
| 翻訳センター従業員持株会 | 56,000 | 1.67 |
| 株式会社エスアイエル | 52,100 | 1.56 |

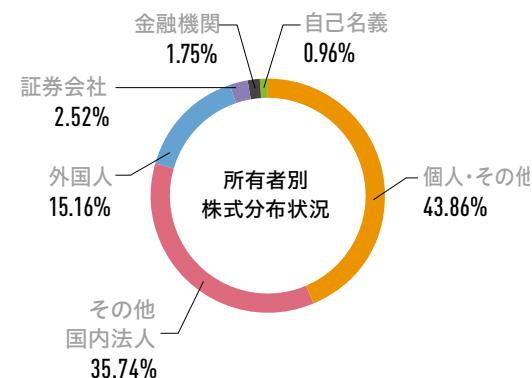
*持株比率は自己株式(32,222株)を控除して計算しております。

会社概要 (2023.3.31現在)

| | |
|-------|---|
| 商号 | 株式会社 翻訳センター |
| 設立 | 1986年4月 |
| 代表者 | 二宮 俊一郎 |
| 本社所在地 | 大阪本社:大阪府中央区久太郎町4丁目1番3号 大阪御堂筋ビル13階 東京本社:東京都港区三田3丁目13番12号 三田MTビル7階、8階 |
| 資本金 | 5億8,844万3,000円 |
| 従業員 | 520名(連結) |
| 事業内容 | 翻訳サービス業 |
| 関係会社 | HC Language Solutions, Inc. 株式会社FIPAS 株式会社アイ・エス・エス 株式会社パナシア 株式会社メディア総合研究所 ランゲージワン株式会社* |

*持分法適用会社

> 株式分布状況



役員 (2023.6.28現在)

| | |
|--------------|--------|
| 代表取締役社長 | 二宮 俊一郎 |
| 取締役(営業統括) | 武山 佳憲 |
| 取締役(管理統括) | 魚谷 昌司 |
| 取締役 | 西野 奈々 |
| 取締役(常勤監査等委員) | 大西 耕太郎 |
| 取締役(監査等委員) | 山本 淳 |
| 取締役(監査等委員) | 村田 淳一 |